

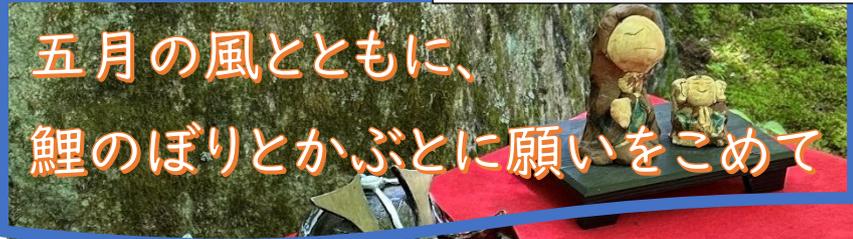


滋賀県立三雲養護学校

学校ホームページをのぞいてください

令和7年5月
石部分教室
取組紹介

五月の風とともに、
鯉のぼりとかぶとに願いをこめて

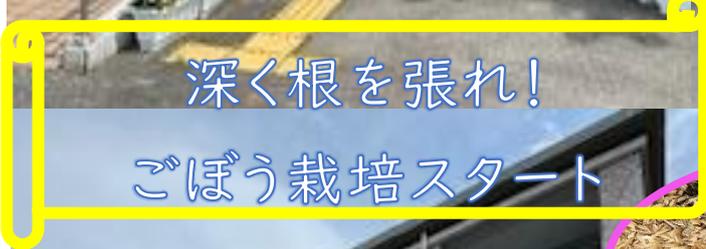


湖南三山 長寿寺

お寺の参道に並ぶ
分教室の生徒たちの力作



深く根を張れ！
ごぼう栽培スタート



農業班では、今年度新たに、ゴボウ栽培に挑戦しています。そのきっかけとなったのが「東寺献上ごぼう復刻プロジェクト」代表の窪田様との連携です。肥料袋に土を詰めて立て、50cm以上になるゴボウが育つように工夫しています。うまく育成してくれますように！

読売新聞 5月9日 滋賀

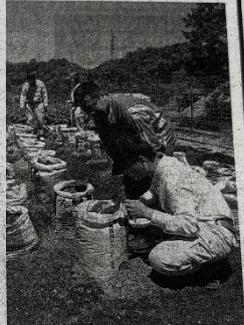
皇室献上ゴボウ「袋栽培」に挑む 湖南の養護学校生

湖南市丸山の県立三雲養護学校石部分教室の生徒らが8日、校内の農地でゴボウの種まきを行った。

同市東寺産のゴボウは「東寺ごぼう」と呼ばれ、皇室に献上されたこともあり、同市の農業窪田匡希さん(50)が伝統野菜に再び光を当てようと、2019年に「東寺献上ごぼう復刻プロジェクト」をスタート。「ごぼう茶」に加工して販売するなどしてきた。しかし、土中で長さ80センチにも成長するゴボウは収穫に労力を要し、連作も難しいことから栽培に協力する農家が減り、ごぼう茶も欠品となっている。

この日は、同校の農業班の生徒5人とともに、袋に土を詰めて育てる「袋栽培」にチャレンジ。高さ40センチほどの袋を破れば、

生徒らとともに種まきをする窪田さん(右から2人目、湖南市で)



土が崩れてその分の長さのゴボウが姿を現すため、収穫が簡単になる利点がある。窪田さんは「ごぼう茶にするなら、長さ40センチでも大丈夫。東寺の地で育てることに意義がある。形を変えても生き残り、特産品として育てたい」と話した。収穫は11月頃の予定という。

花を手向けたと語り

